

2019年度入学試験問題出題のねらい・解答例 (推薦入学選考)

中村学園大学〔栄養科学部 フード・マネジメント学科〕

【小論文】

〈出題のねらい〉

栄養科学部フード・マネジメント学科は、理系科目の食品科学・栄養科学の知識を基礎として、食ビジネスに貢献できる人材養成を主目的とする文理融合型の学科である。このため、毎年公表される様々な統計データを理解・分析する能力に加えて、食料や食ビジネスについて記述した様々な文章を理解・分析する能力が求められる。小論文を課す目的は統計データや文章が意味するところを正しく理解し、食料をめぐる様々な社会的事象や考え方の背景を推論できるかどうかを判定することである。このようなことから、本年度の推薦入学選考の小論文では、図表を読み取って指示に従って記述する問題のほか、文章を読み解き解答する問題を出題した。

本学科を志望する学生は、普段から食料の生産から流通、加工、消費、栄養摂取、健康に至る幅広い領域に関心を持ち、新聞やニュース等の情報を、自分なりに判断する習慣をつけておくことが望ましい。

小論文その1は、わが国における食品廃棄物の発生と再生利用に関する統計データを食品産業の業種との関連の下に分析する問題である。わが国では食品廃棄物の発生抑制と発生した食品廃棄物の肥料や飼料等へのリサイクルを促進し、循環型社会の形成に寄与することが課題となっている。

設問1、2は図中の数値を読みとって、設問の指示にしたがって計算し、再生利用の実施を最も多く増加させなければならない業種を選び出す問題であり、設問3は再生利用等実施率に関して特徴のある動向を示している2つの業種に焦点を当て、今後の取り組みの程度を記述する問題である。

設問3の採点で重視したことは次の3点である。第1は、2つの業種について、それぞれ再生利用等実施率の動向が目標値の達成に向けて明らかに異なっていることを正しく把握した上で、今後必要とすべき取り組みの程度を記述できているか否か。第2は、主語、述語が明確な文章になっているか否か。第3は、誤字や脱字がなく適切な文章表現により定められた文字数の範囲で客観的に記述できているか否か、である。

小論文その2は、わが国の食料安全保障のあり方に関する文章の理解とそれに基づく推論の問題である。食料自給率が低く、食料の多くを輸入に頼っているわが国の食料の安全保障に関しては、様々な考え方がある。

設問1は文章を読んで食料安全保障の3つの手段の利点、欠点を整理する問題であり、設問2はその整理に基づいて「輸入の安定化を図ることを最も重視すべき」との考え方の背景にある理由を記述するものである。設問1はできるだけ文章中の表現を用いると簡潔にまとめられるが、国内生産の利点については明示されていないので、例えば「輸入の安定化」の欠点を否定した内容にするなどの推論が必要である。設問2は、自分の考えを述べるのではなく、この文章の論理に従えばどう理解できるのかを述べるものである。食料をめぐる対立する様々な意見がある場合に、それぞれの意見がどのような理由に基づくものかを理解することが、自分の意見を決め、あるいはそれを主張する際に重要となる。

設問2の採点で重視したことは次の3点である。第1は、著者によるそれぞれの手段の利点、欠点を挙げて記述しているか否か。第2は、論理的に整合性のある文章になっているか否か。第3は、誤字や脱字がなく適切な文章表現により定められた文字数の範囲で客観的に記述できているか否か、である。

〈模範解答例〉

(その1)

設問1 再生利用等実施量 a) 15,359 b) 174 c) 623 d) 459

設問2 業種名：外食産業 増加量：538

設問3 食品製造業

再生利用等実施率は、平成25年以降、目標値を達成しており、現状の取り組みの継続が必要である。(45字)

外食産業

再生利用等実施率が低下傾向であり、目標値を達成するためには早急に取り組みの強化が必要である。(46字)

(その2)

設問1

	手段	利点	欠点
1	国内生産	・最もあてにできる（信頼できる）	・全てを国内生産するのは不可能 ・費用がかかる
2	備蓄	・一時的な食料不足に最も有効	・（多く保有するほど）費用がかかる
3	輸入の安定化	・費用がかからない	・危機対策としてあてにならない

設問2

国内農業生産は最も信頼できる方法であるが、全ての食料を国内で生産するのは不可能なうえに、多くの費用がかかる。危機対策として信頼できないとしても、最も費用がかからない輸入の安定化を最も重視すべきである。(100字)